

We will make a fresh step everyday.

〈にっしん〉


2012年9月仮決算から



 **日新信用金庫**

〒673-0892 明石市本町2-3-20

もしもコール イコー ニッシンバンク

 **0120-15-2489**

(受付時間 平日午前9時から午後5時まで)

FAX 078-912-4589

<http://www.nisshin-shinkin.co.jp/>

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚くお礼申し上げます。
 昨年からの欧州経済危機問題は、今なお不透明感があり、また米国、新興国経済の減速により世界的な需要不足が続いています。国内についても、世界経済の減速化などの影響で輸出は弱めとなっており、全体では低調に推移しております。

こういった中で、平成24年9月末は預金残高6,740億円、貸出金残高3,028億円となり、平成24年3月末対比で、預金残高は164億円の増加、貸出金残高は79億円の減少となりました。

当期純利益は債券売却益も寄与し527百万円計上でき、健全性を示す自己資本比率は11.3%と十分な水準にあります。

〈にっしん〉は、社会貢献、地域貢献の一環として、視覚障がい者の方がご利用いただける音声案内用ハンドセット付ATM、店頭窓口に携帯型助聴器を、また自動体外式除細動器(AED)も全店に設置しました。

経済情勢は、引き続き不安定な要素はありますが、平成24年度から3ヶ年中期計画をスタートし、「地域とともに持続的発展を」をスローガンに、どのような経済環境下においても、地域社会に密着し、お役に立てる信用金庫として信頼されるよう役職員一丸となって懸命に取り組んでまいります。

従来にも増してご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年11月



西宮今津支店 平成25年春OPEN



絆 (地域とともに持続的発展を)

- 視覚障がい者のお客様もATMをご利用いただけるように、全ての店舗に音声案内用ハンドセット付のATMを設置しました(H24.6)。



- 全営業店の店頭窓口に携帯型助聴器(ボイスメッセ)を設置しました(H24.6)。



- 明石市と協同で「ヴィッセル神戸サッカークリニック」を明石海浜公園運動場に開催。ヴィッセル神戸の選手2名、スクールコーチ8名の指導のもと明石市内の小中学生110名が参加されました。



- 全ての店舗にAED(自動体外式除細動器)を設置しました(H24.6)。



便利になりました

- フリーローン「モア」とカードローン「きゃっする」が、当金庫ホームページからインターネットでお申込みできるようになりました(H24.9)。

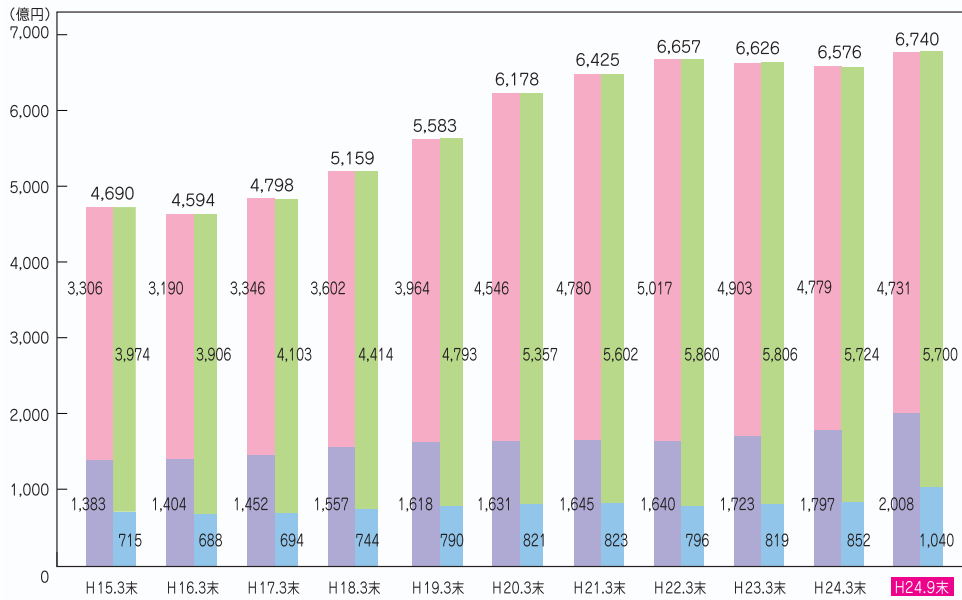


フリーローン「モア」



カードローン「きゃっする」

〈預金〉



【預金】

預金は、平成24年3月末対比では164億円の増加となりましたが、3月末は地方公共団体等の預金が毎年引出されるという特殊事情がありますので、実態は昨年度上半期よりも低い水準で推移しています。今後、預金営業にも注力してまいります。当面の課題は流動性預金及び法人預金の構成比を引き上げることです。

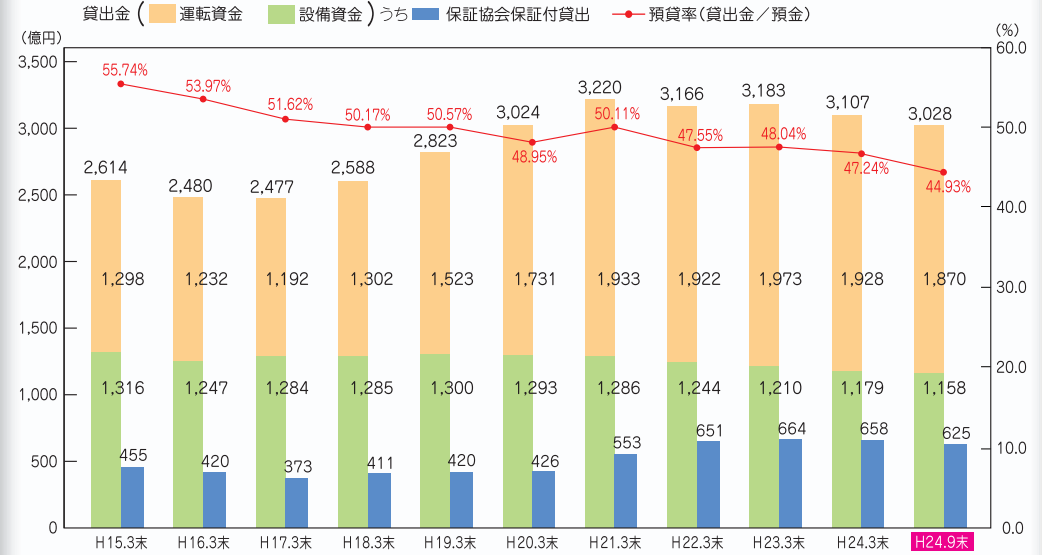
【貸出金】

景気低迷の中、地域の資金需要は低調であり、貸出金は減少しました。特に設備資金の減少が目立ちます。今後も事業金融融資を中心に地道な活動を続け、タイムリーに資金供給が行なえるよう一層努力してまいります。また、個人のご希望に添えるよう消費者ローンにも注力してまいります。

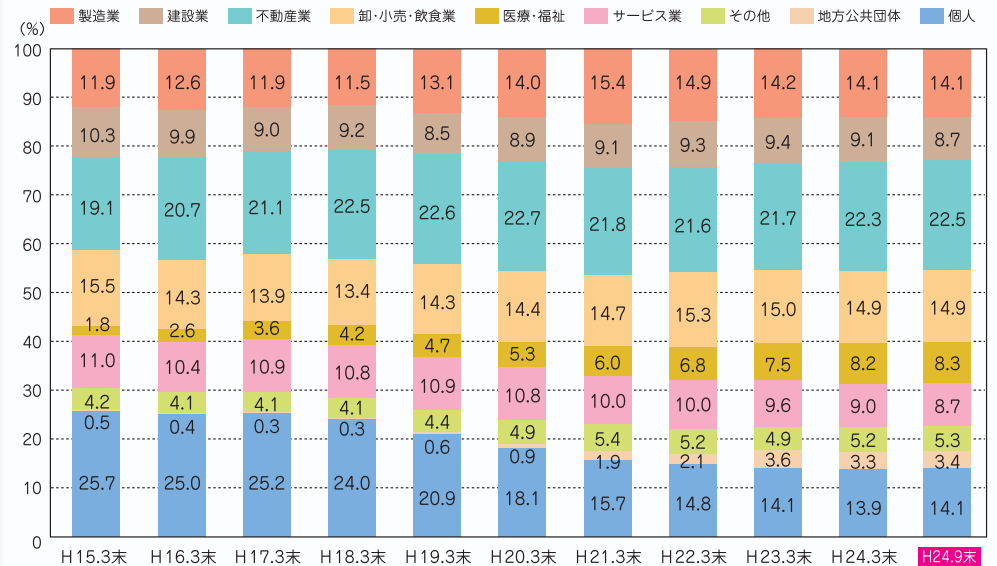
【業種別構成比】

業種別で見ると、傾向として医療・福祉等の構成比が上がっています。個人の大部分は住宅ローンですが、減少が続いています。

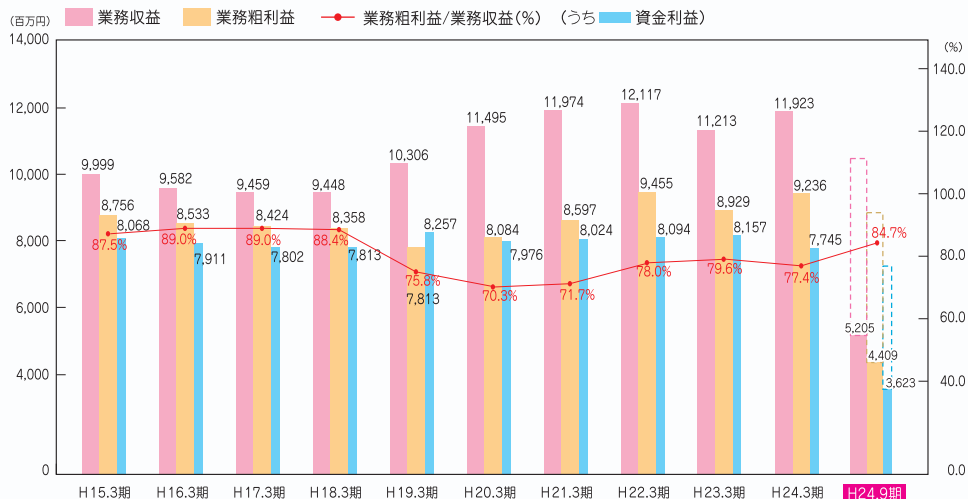
〈貸出金と預貸率〉



〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈 業務収益、業務粗利益(うち資金利益) 〉



(注)H24.09期は上半期6ヶ月間の実績です。仮にこれを単純に2倍したものを点線で示しています。

業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役員取引収入等)は、一般企業の売上に当たるものです。この9月期の数字(半年分)を仮に単純に2倍して平成24年3月期(1年分)と比較すると減少しています。

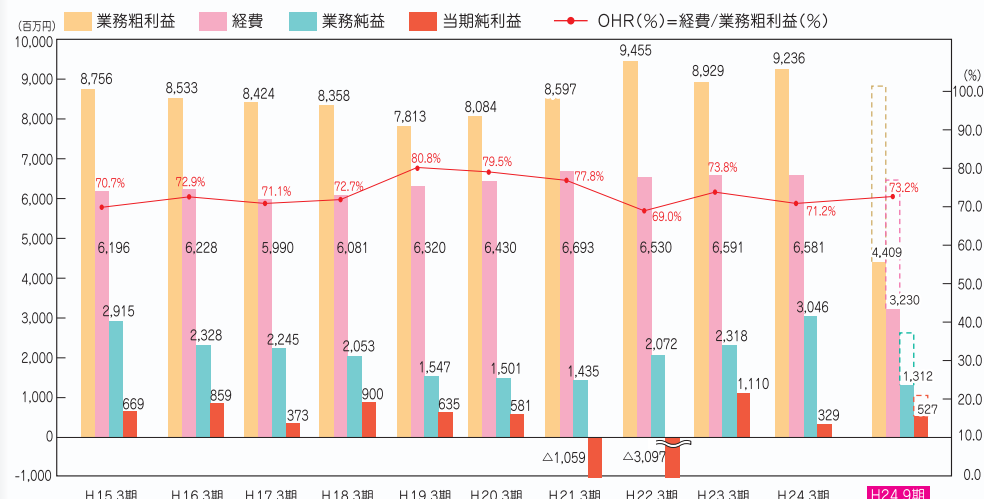
業務粗利益は債券の売却による収益はあったものの減少しています。これは金庫の中核的業務から得られる資金利益(貸出金と有価証券等運用から発生する利益-預金支払利息)が貸出金の減少と市場金利の低下により減少したためです。

〈 資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率 〉

貸出金利回り有価証券利回りは、市場金利の低下によりこの数年間低下し続け、利ざやが過去最低となっております。今後、資金運用利回りを引き上げることが喫緊の課題となっております。

〈 業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期利益 〉

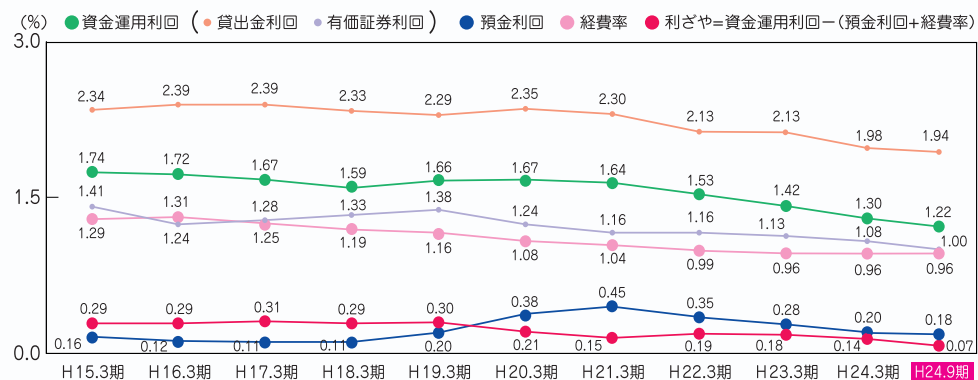
[参考]業務粗利益-(経費+一般貸倒引当金繰入額)=業務純益



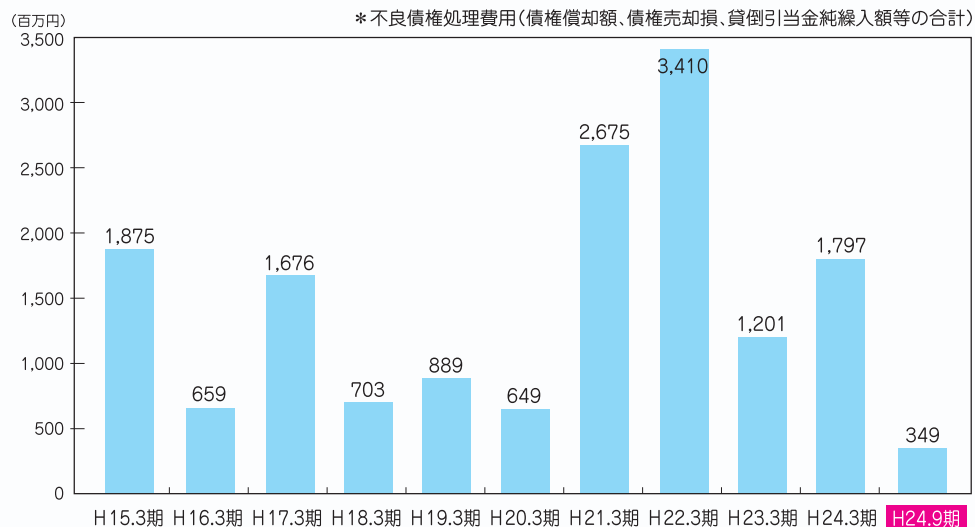
(注)H24.09期は上半期6ヶ月間の実績です。仮にこれを単純に2倍したものを点線で示しています。

経費は、平成21年3月期をピークに減少しています。この9月期は、債券売却益及び不良債権処理費用(個別貸倒引当金繰入額)の減少等があり計画以上に当期純利益を計上でき、OHRも改善しています。

引き続き収益増強、不良債権処理費用の低減に努めてまいります。



〈貸出金にかかる不良債権処理費用等〉



貸出金にかかる不良債権処理費用等とは、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金純繰入額、債権償却額等の合計です。すなわち、将来の発生を見込んで現時点で算定した損失見込額及び回収不能となって確定した損失の合計額です。

なお、今期の不良債権処理費用等はこの数年と比べて落ち着いており、前年同時期(745百万円)と比べましても経営支援による改善もあって減少となっております。

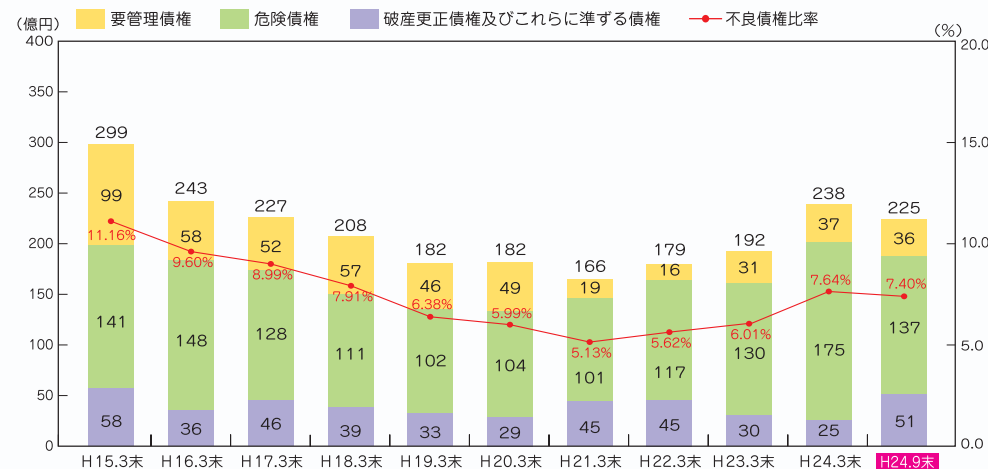
貸出債権の不良化を防がなければならないのは当然のことですが、同時に、将来のために引当を十分に行うことも重要です。

〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

平成24年9月末現在の不良債権(要管理債権を除く。)は188億円ありますが、その保全状況は右の通りです。

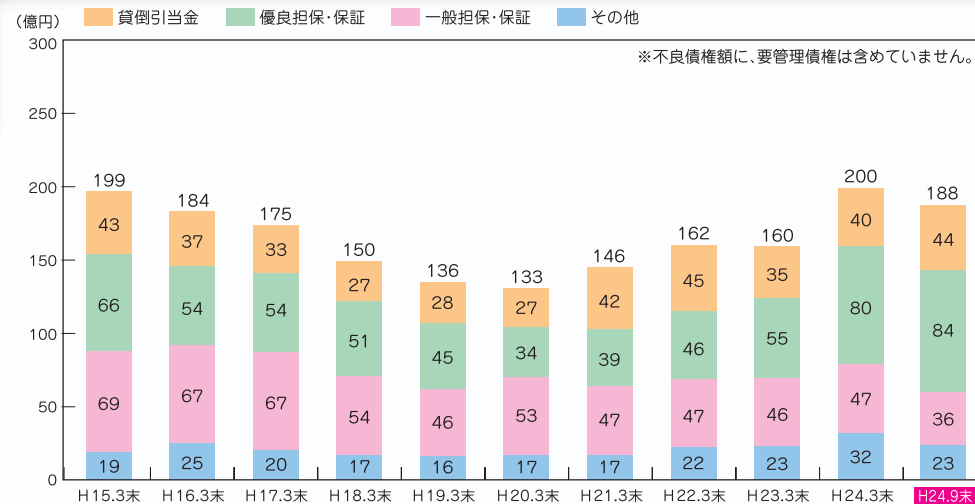
貸倒引当金や担保・保証で保全されている額が165億円で、残り23億円はこれまでの実績から見て回収可能と判断される額です。

〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉

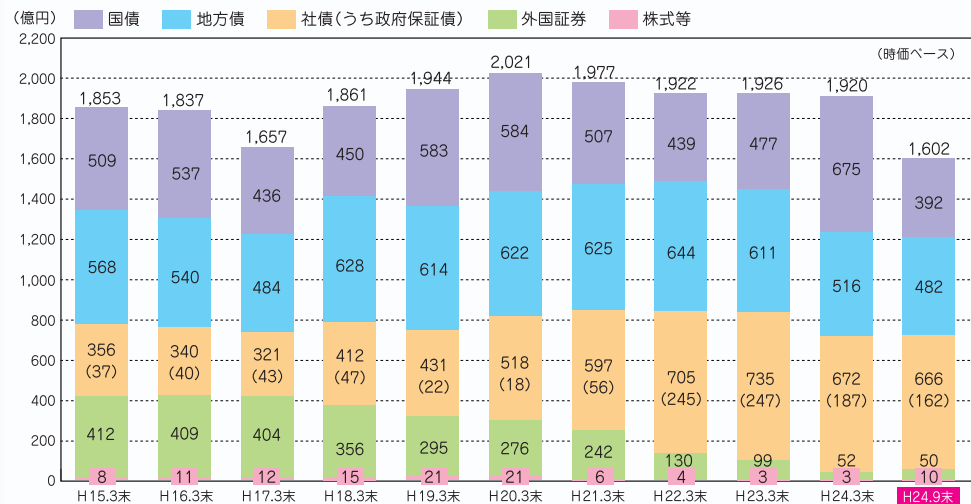


不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類され、平成24年3月末と比較して減少したものの、大口の破綻等が発生したことにより破産更生等債権は増加することとなりました。破産更生等債権については未保全額に相当する額を個別貸倒引当金として計上しますので、会計上は損失処理を完了していると言えます。あとは担保処分等を行うことになります。

要管理債権と危険債権の合計額は、経営支援活動への積極的な取り組みもあって減少しました。

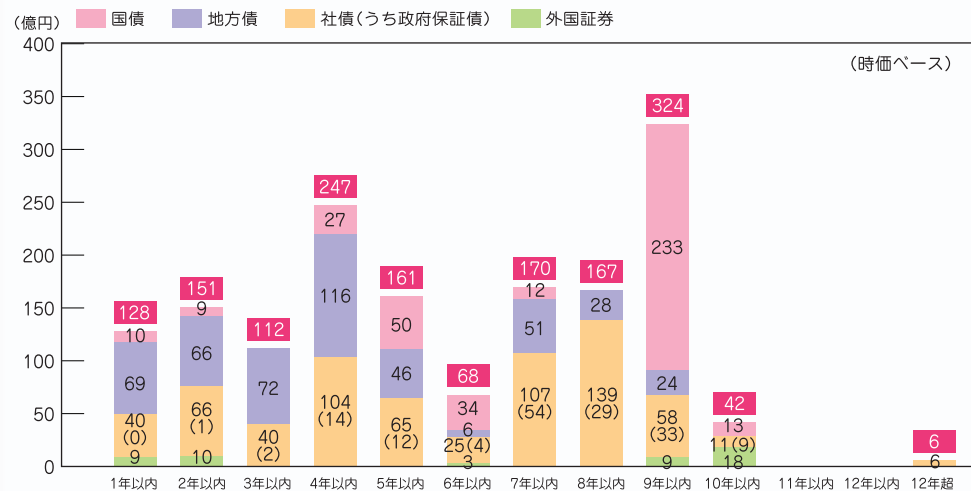


＜有価証券の種類別保有状況(期末残高)＞



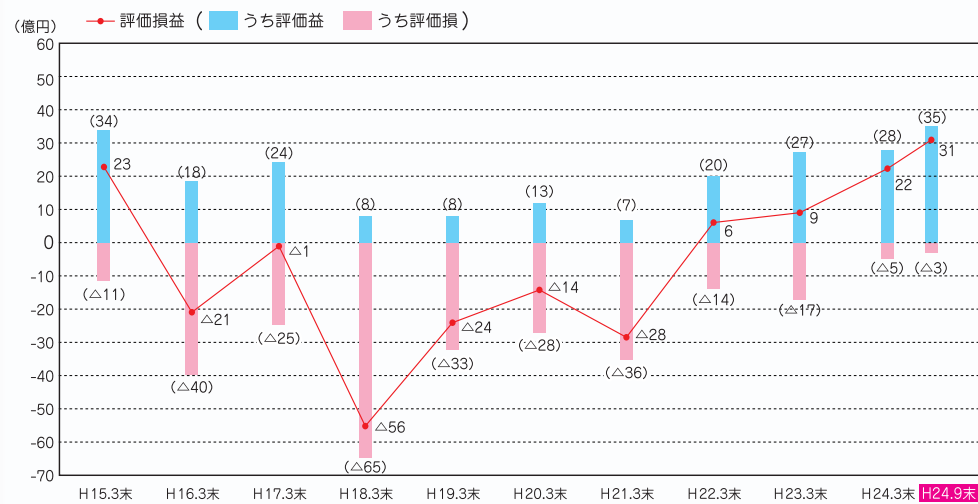
国債、地方債、政府保証債が有価証券運用の65%を占めており、安全性に配慮した運用を行っています。また、社債は格付がA格以上の発行体が発行するものに分散して投資することとしています。国債及び地方債は、売却や償還により減少しています。株式は今期に入り高配当銘柄を中心に一定範囲内で運用しています。

＜債券(償還までの期間別に見た残高)、平成24年9月末現在＞



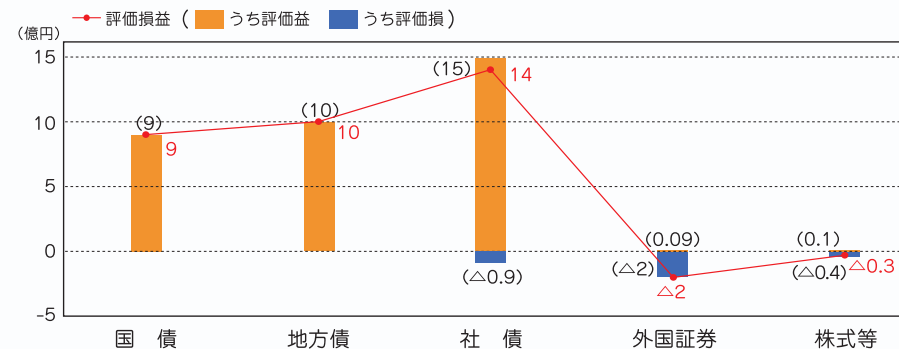
有価証券のうち株式を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したものです。国債を売却したことにより、5年から8年の残高が減少しています。10年を超える長期投資はリスクと利回りを考慮して慎重に行っています。

＜有価証券の評価損益の推移＞



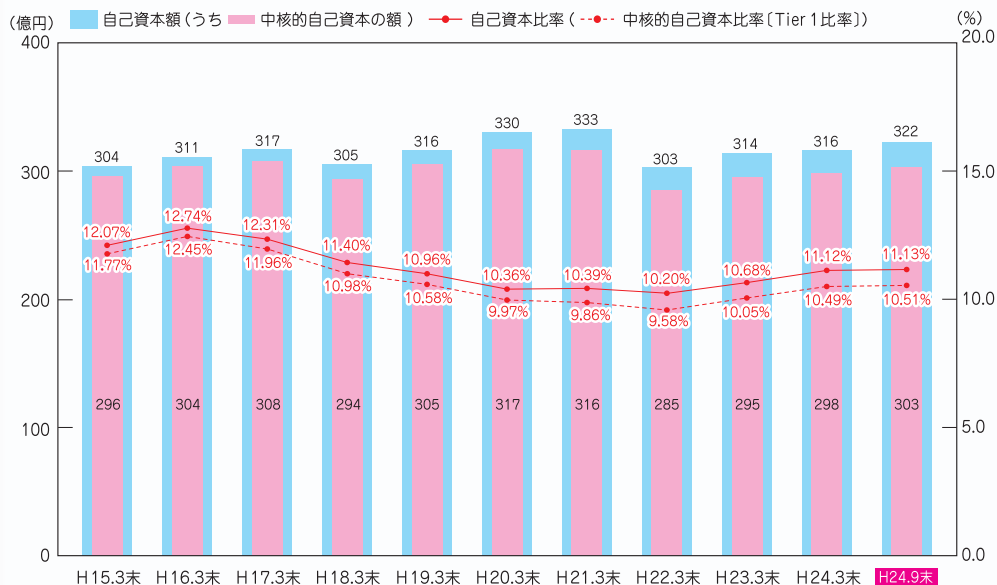
平成24年9月末現在、評価益の出ている(市場価格が簿価を上回っている)有価証券の評価益合計は35億円、評価損合計は3億円です。差引31億円の評価益となっています。

＜有価証券の種類別の評価損益(平成24年9月末現在)＞



平成24年9月末現在の有価証券の種類別評価損益を示したグラフです。国債、地方債及び社債は全体として評価益が出ており、評価損はほとんどありません。

〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



(億円)

	H15.3末	H16.3末	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末	H24.9末
繰延税金資産	19	22	18	32	28	23	26	3	1	—	—

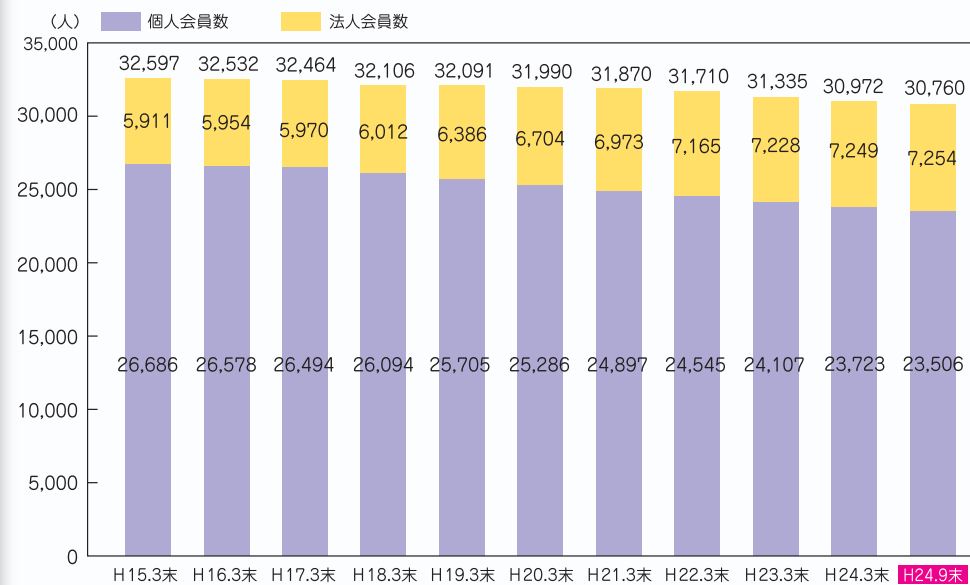
(億円)

	H15.3末	H16.3末	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末	H23.3末	H24.3末	H24.9末
リスクアセット	2,519	2,444	2,573	2,676	2,883	3,185	3,210	2,976	2,941	2,845	2,891

自己資本の額は322億円で、そのほとんど(94%)が中核的自己資本(Tier 1)からなっています。自己資本の額はここ10年、おおむね300億円強で推移しています。

自己資本比率は、「自己資本の額÷リスクアセット」です。リスクアセットは、預金の増減による運用資産(なかでも貸出金)の増減に基本的に連動します。自己資本比率は11.13%、中核的自己資本(Tier 1)比率でも10.51%を確保しており、十分な水準にあると判断しています。

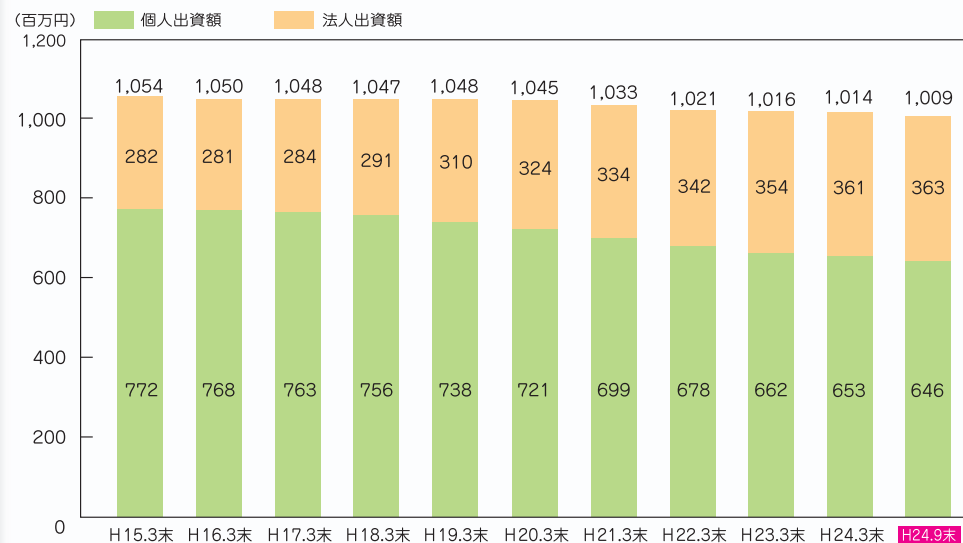
〈会員数〉



〈にっしん〉の会員数は緩やかに減少しています。これは個人会員が死亡等により減少しているためです。

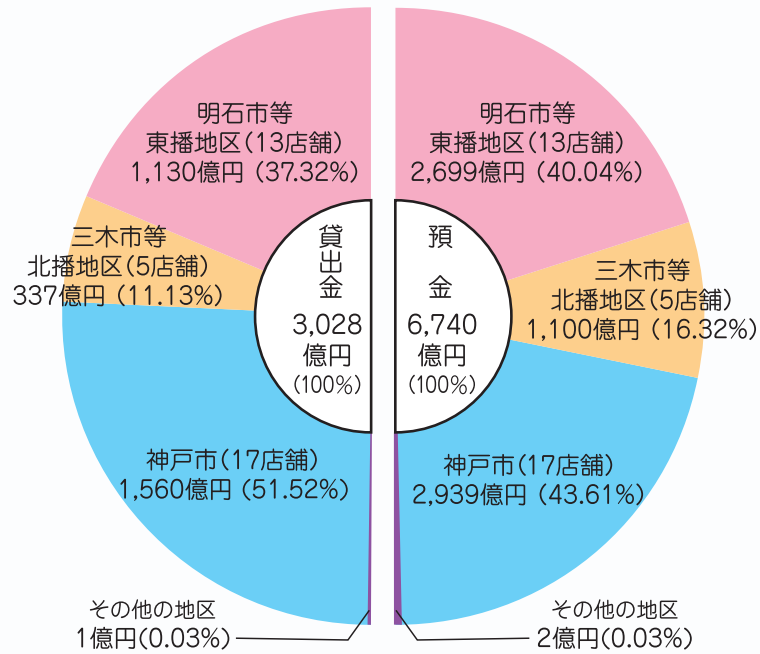
法人会員は一貫して増加しております。

〈出資額〉



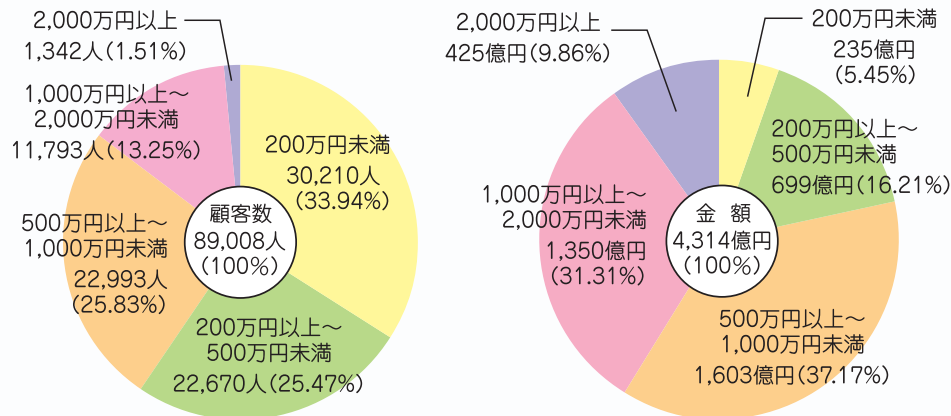
出資額は会員数に比例して毎年、微減傾向で推移しています。一方、法人出資は増加傾向で推移しています。

〈貸出金・預金の地域別構成〉 (平成24年9月30日現在)



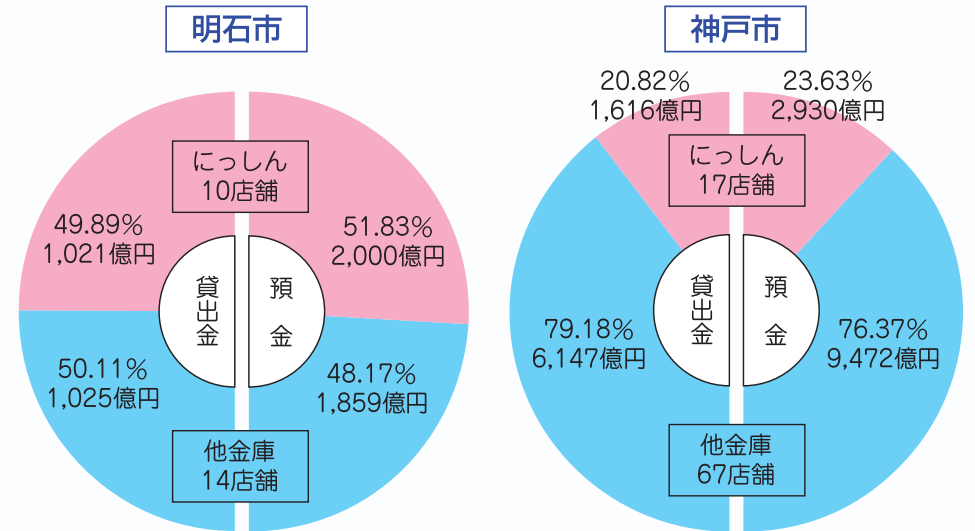
〈預金者のプロフィール〉

〈個人定期預金の残高階層別に見た顧客数と預金額〉 (平成24年9月30日現在)

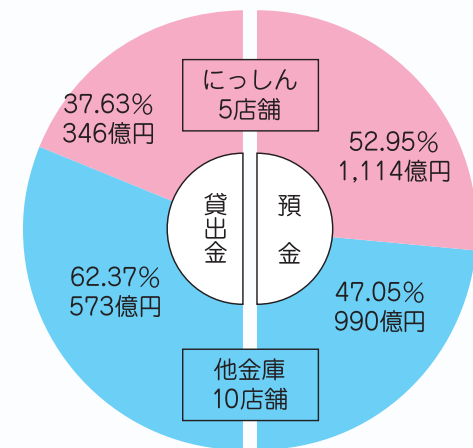


※預金は個人の定期預金残高を対象に作成しています。

〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉 (平成24年3月31日現在)



三木市・小野市・加東市



※その他地区 預金532億円、貸出金124億円。

1. 資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	平成23年9月末	平成24年9月末	増減	平成24年3月末
現金・預け金	201,488	244,929	43,441	187,590
コールローン	—	—	—	—
有価証券	200,270	160,288	△ 39,982	192,029
貸出金	316,463	302,834	△ 13,629	310,712
事業性貸出金	261,385	249,849	△ 11,536	
貸倒引当金	△ 6,986	△ 6,720	266	△ 6,429
うち個別貸倒引当金	△ 4,383	△ 4,675	△ 292	△ 4,251
資産の部合計	722,333	711,920	△ 10,413	694,500

(単位:百万円)

負債及び純資産の部	平成23年9月末	平成24年9月末	増減	平成24年3月末
預金積金	684,806	674,011	△ 10,795	657,686
個人預金	582,406	570,027	△ 12,379	
負債の部合計	690,768	679,235	△ 11,533	662,976
出資金	1,018	1,009	△ 9	1,014
利益剰余金	28,739	29,386	647	28,898
その他有価証券評価差額金	1,805	2,289	484	1,611
純資産の部合計	31,564	32,685	1,121	31,524
負債及び純資産の部	722,333	711,920	△ 10,413	694,500

2. 損益の状況

(単位:百万円)

項目	平成23年9月末 (平成23年4月1日～9月30日)	平成24年9月末 (平成24年4月1日～9月30日)	増減
業務粗利益……………②	4,493	4,409	△ 84
うち資金利益	3,970	3,623	△ 347
うち役務取引等利益	228	210	△ 18
うちその他業務利益	294	574	280
一般貸倒引当金繰入額③	34	△ 133	△ 167
経費……………④	3,361	3,230	△ 131
業務純益……………①	1,097	1,312	215
実質業務純益……………⑤	1,132	1,179	47
臨時損益……………⑦	△ 644	△ 553	91
うち不良債権処理額	711	482	△ 229
うち株式関係損益	△ 27	△ 11	16
経常利益……………⑥	453	758	305
特別損益	0	8	8
税引前当期純利益……………⑧	453	766	313
当期純利益……………⑧	170	527	357

■主な項目の計算方法

- ①業務純益 = ②業務粗利益 - ③一般貸倒引当金繰入額 - ④経費
 ⑤実質業務純益 = ①業務純益 + ③一般貸倒引当金繰入額
 ⑥経常利益 = ①業務純益 + ⑦臨時損益
 ⑧当期純利益 = ⑧税引前当期純利益 - 法人税等合計

3. 業種別貸出金の状況

(単位:百万円、%)

内 訳	平成23年9月末		平成24年9月末		残高増減
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	45,136	14.3%	42,577	14.1%	△ 2,559
農業・林業	98	0.0%	106	0.0%	8
漁業	311	0.1%	273	0.1%	△ 38
鉱業・採石業・砂利採取業	34	0.0%	15	0.0%	△ 19
建設業	28,784	9.1%	26,267	8.7%	△ 2,517
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—
情報通信業	1,147	0.4%	1,071	0.3%	△ 76
運輸業・郵便業	12,625	4.0%	12,352	4.1%	△ 273
卸売業・小売業	42,031	13.3%	39,345	13.0%	△ 2,686
金融業・保険業	1,483	0.5%	2,303	0.8%	820
不動産業	68,854	21.8%	68,153	22.5%	△ 701
物品賃貸業	1,511	0.5%	1,123	0.4%	△ 388
学術研究・専門・技術サービス業	1,155	0.4%	1,287	0.4%	132
宿泊業	1,108	0.4%	940	0.3%	△ 168
飲食業	6,444	2.0%	5,922	1.9%	△ 522
生活関連サービス業・娯楽業	8,860	2.8%	8,444	2.8%	△ 416
教育・学習支援業	1,297	0.4%	1,269	0.4%	△ 28
医療・福祉	24,939	7.9%	25,013	8.3%	74
その他のサービス	15,563	4.7%	13,381	4.4%	△ 2,182
小 計	261,385	82.6%	249,851	82.5%	△ 11,534
地方公共団体	11,088	3.5%	10,189	3.4%	△ 899
個人(住宅・消費・納税資金等)	43,990	13.9%	42,794	14.1%	△ 1,196
合 計	316,463	100.0%	302,834	100.0%	△ 13,629

4. 有価証券の状況

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

内 訳	平成23年9月末				平成24年9月末			
	時価	評価差額	うち益	うち損	時価	評価差額	うち益	うち損
その他有価証券	200,270	2,625	4,220	1,595	149,980	3,171	3,560	388
国債	57,817	1,402	1,446	44	28,947	937	937	—
地方債	57,087	1,276	1,277	1	48,238	1,081	1,081	0
社債	77,471	674	1,486	812	66,643	1,430	1,521	90
うち 政府保証債	24,956	869	869	—	16,289	760	760	0
うち 公社公団債	2,588	30	46	16	2,353	28	38	9
うち 金融債	11,418	64	67	2	14,076	139	139	—
株式	115	△ 27	—	27	558	△ 27	10	37
その他	7,639	△ 700	10	710	5,482	△ 250	9	259
満期保有目的の債券	—	—	—	—	10,612	304	304	—
売買目的有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—
子会社・関連会社株式	139	—	—	—	139	—	—	—

※ 評価差額は、9月末日の帳簿価格(償却原価法適用後、減損処理後)と時価の差額を計上しています。

※ 時価は9月末日の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組合出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としております。

5. 決算の状況

(単位:百万円)

項 目	平成23年9月末	平成24年9月末
業 務 純 益	1,097	1,312
経 常 利 益	453	758
コア業務純益	856	621
当期純利益	170	527

6. 自己資本の状況

単体自己資本比率

(単位:百万円)

項 目	平成23年9月	平成24年9月	増 減	平成24年3月
出資金	1,018	1,009	△ 9	1,014
利益準備金	1,016	1,014	△ 2	1,014
特別積立金	27,270	27,270	0	27,270
次期繰越金	453	1,101	648	573
その他有価証券の評価差損(△)	—	—	—	—
基本的項目計……………(A)	29,758	30,396	638	29,872
一般貸倒引当金	2,652	2,093	△ 559	2,226
補完的項目不算入額(△)	809	286	△ 523	△ 447
補完的項目計……………(B)	1,843	1,807	△ 36	1,778
控除項目計……………(C)	—	—	—	—
自己資本額(A)+(B)-(C)…(D)	31,601	32,203	602	31,651
リスク・アセット等計……………(E)	294,901	289,196	△ 5,705	284,548
単体自己資本比率(D)/(E)	10.71%	11.13%	0.42%	11.12%

※ 「信用金庫法89条第1項において準用する銀行法14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。自己資本比率規制の一部を弾力化する特例(平成20年金融庁告示79号)に基づき算出しておりますが、この特例を考慮しない場合においても自己資本比率に影響はありません。

■ 本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。

■ 本誌に掲載している計数については、会計監査人による監査を受けていません。

7. 自己資本の構成(単体)

(単位:百万円)

項 目	平成24年3月末	平成24年9月末
(自己資本)		
出 資 金	1,014	1,009
利 益 準 備 金	1,014	1,014
特 別 積 立 金	27,270	27,270
次 期 繰 越 金	573	1,101
その他有価証券の評価差損	—	—
(基本的項目)計(A)	29,872	30,396
一 般 貸 倒 引 当 金	2,226	2,093
(補完的項目)計(B)	1,778	1,807
自己資本総額(A)+(B)=(C)	31,651	32,203
控 除 項 目 (D)	—	—
自己資本額(C)-(D)=(E)	31,651	32,203
(リスク・アセット等)		
資産(オン・バランス)項目	267,687	272,379
オフ・バランス取引項目	651	607
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	16,209	16,209
リスク・アセット等計(F)	284,548	289,196
単体自己資本比率(E)/(F)	11.12%	11.13%

(注)

1. 「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。

2. オペレーショナル・リスクは基礎的手法を採用しております。

3. 平成24年3月末については、「その他有価証券の評価差損」はありません。従って、自己資本比率規制の一部を弾力化する特例の有無にかかわらず、単体自己資本比率は11.12%となります。

平成24年9月末については、「その他有価証券の評価差損」はありません。従って、自己資本比率規制の一部を弾力化する特例の有無にかかわらず、単体自己資本比率は11.13%となります。

●オペレーショナル・リスク「基礎的手法」の算出方法

粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)×15%
直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数 = 8%

8. 不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

(単位:百万円)

区 分	平成23年9月末	平成24年9月末(A)	増 減	平成24年3月末
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	3,349	5,153	1,804	2,565
危 険 債 権	14,021	13,743	△ 278	17,520
要 管 理 債 権	4,370	3,620	△ 750	3,785
不良債権合計	21,742	22,516	774	23,870
正 常 債 権	296,418	281,711	△ 14,707	288,309
合 計	318,161	304,228	△ 13,933	312,179
不良債権比率	6.83%	7.40%	0.57%	7.64%

保全状況(平成24年9月末)

(単位:百万円)

区 分	担保・保証額(B)	担保保証のない部分(C)=(A)-(B)	引当額(D)	(C)に対する引当率(D)/(C)	保金額(E)=(B)+(D)	保全率(E)/(A)
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	3,047	2,106	2,106	100.00%	5,153	100.00%
危 険 債 権	8,999	4,744	2,372	50.00%	11,371	82.74%
要 管 理 債 権	1,197	2,423	228	9.40%	1,425	39.36%
不良債権合計	13,243	9,273	4,706	50.74%	17,949	79.71%

店舗一覧

明石市中央部

本店営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
明石駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431

明石市西部

西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
江井ヶ島支店	明石市大久保町江井島739-3	078(946)0623
魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221

加古川市・高砂市・播磨町

加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270

三木市・小野市・加東市

三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
天神支店	加東市天神492	0795(47)1011
滝野支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010

神戸市東部

本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-6	078(411)3281
六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431

神戸市中央部

神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5 (<small>飯店舗にて営業中 神戸市中央区元町通6-7-9</small>)	078(341)4502
兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001

神戸市北部

鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-20	078(591)1221
ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489

神戸市西部

垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110

※西宮今津支店が平成25年3月に開設予定です。